

おかやま県民文化祭参加
第56回岡山芸術祭参加
特別展
生誕140年

白鳥展 正宗

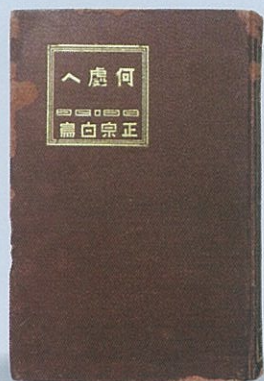
2018.11/4(日)→
2019.2/3(日)



まさむねはくちょう

正宗白鳥 (明治12年～昭和37年／現・備前市生／本名・忠夫)

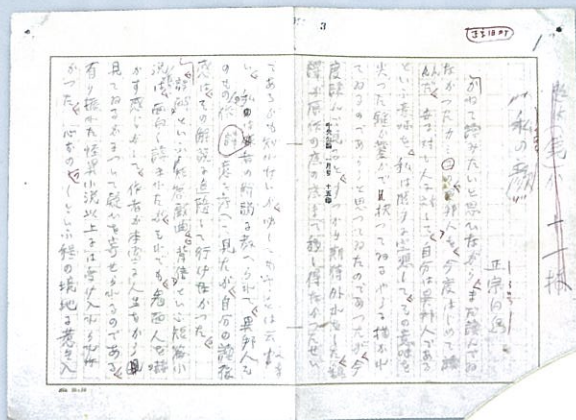
明治29年、上京し、東京専門学校(早稲田大学の前身)専修英語科に入学。34年、島村抱月の指導のもと、同級生らと「読売新聞」の月曜文学欄に批評を発表。同年、卒業。37年、後藤宙外の勧めで初めての小説「寂寞」を「新小説」に発表。40年、第一創作集『紅塵』、翌年、『何處へ』刊行。自然主義作家としての地位を確立した。主な著書に『泥人形』、『入江のほとり』、『今年の秋』(読売文学賞受賞)など。小説の他に、劇作・評論にもすぐれ、『ある心の影』、『人生の幸福』、『文壇人物評論』、『作家論』などがある。



『何處へ』
(易風社／明治41年)

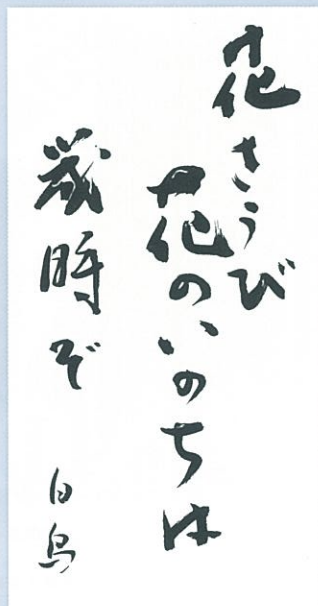


『入江のほとり』
(春陽堂／大正5年)

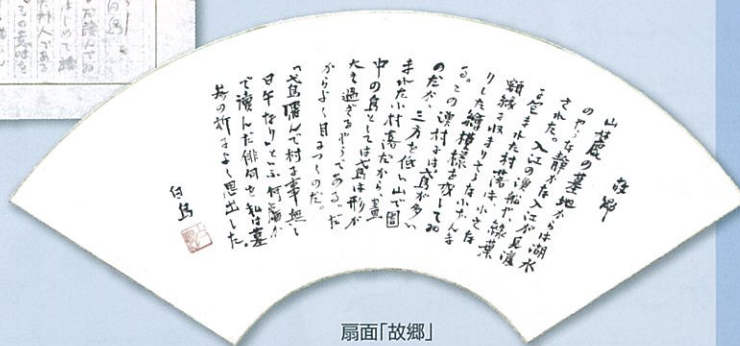


原稿「私の顔」

「花さうび花のいのちは幾時ぞ」



掛軸



扇面「故郷」

2019年、正宗白鳥は生誕140年を迎えます。この節目の年を記念し、特別展「生誕140年 正宗白鳥展」を開催いたします。
今回の展示では、当館が収蔵している貴重な資料の中から、直筆の原稿、短冊、掛軸、初版本などを展示し、小説家・劇作家・文芸評論家として各分野で活躍した白鳥の功績をたどります。また、故郷・岡山とのかかわりや、他作家との交流についてもご紹介いたします。
本展示を通して、正宗白鳥の魅力に触れていただけたら幸いです。

併催 〈企画展〉吉備路文学入門

吉備路文学館には、小さな日本庭園があります。
館内からゆっくりながめたり、庭をめぐってみたり。

春夏秋冬

四季それぞれの彩りをお楽しみいただけます。

吉備路文学館
KIBIJI LITERARY MUSEUM

